

海外研修報告

「テキサス州立大学・テキサス女子大学における看護技術教育」

研修期間：2005年3月22日～3月29日

基礎看護学部門 安藤 郁子 滝沢美智子

総合科学部門 林 正幸

I. 研修の目的と概要

看護実践能力の育成に向けて、文部科学省より教育内容のコアとして、技術学習の具体的な例示が示された。本学部においても、看護技術の位置づけ、内容、方法の見直しが迫られている。今回、アメリカ合衆国における看護技術教育の実際を知る事を目的に、The University of Texas (UT) と Texas Woman's University (TWU) の基礎看護教育のカリキュラム、看護技術の教授内容および到達度を視察したので、報告する。

II. 学生の背景

UTでは、入学審査のミーティングに出席し、審査の実際を見学することができた。審査方法は、日本の大学とは大きく異なり、学生部長、新入生担当の教員、事務職員、数名の学生が参加し行われる。受験生個々のプライバシーを守りながら、合格の基準や審査の経過が在学生にもオープンにされている。審査手順は、面接で不合格と判定された学生を除き、GPA（最高得点4.0点）の得点順に合格が決定される。GPAの合格ラインは、TWUで、3.7点以上、UTで、GPAが3.2点以上、文化系GPAが3.5点以上であった。競争率は両大学ともにおおよそ10倍～11倍で、弁護士、医師、販売員、カウンセラーなど様々な社会経験を持つ学生が入学をしている。TWUの場合、在学生の平均年齢は27歳、男子学生は8%をしめている。

III. 学士課程のカリキュラムの概要

1. 2年生で取得する単位は、英語、政治 (US, Texas)、心理学の導入、微生物学、生化学と化学の実習、成長・発達学、解剖・生理学、統計学、栄養学、社会学の導入、女性学、民俗学、哲学、視覚芸術学の他、選択科目を含めた計64単位である。

3. 4年生で取得する単位は、看護体験（看護技術）、

看護診断・看護処置の講義、演習、実習、薬理学、Life span からとらえたアセスメント・診断・ケアプラン・実施・評価に関する講義・実習、薬理学（臨床で用いられる薬に関する全ての知識を含み、ここで言う薬理学は看護免許取得者によって行われていた）、家族看護学、家族の発達、研究、慢性疾患患者を抱える家族の看護、急性期疾患患者を抱える家族の看護、Wellness、高齢者家族のWellness、地域における看護実践、看護管理、集中治療看護、総合看護実習 計62単位である。

一部の実習は、学年の枠を超えて自分の希望する実習を選択することができる。3年生～4年生がひとつのグループになり同じフィールドで実習を行う。4年生がグループのリーダーとして下級生の指導をしており、グループリーダーを中心に日々のプランや実習先での調整も学生たちが主体的に行っている。同行した地域実習では、教会に拠点をおき、地域に密着した実習が行われており、見学の当日は、近所で行われている高齢者のスポーツ大会での救護活動を行っていた。

総合看護実習は4年生で行われ、「Professional Nursingへの移行実習」と位置づけられている。1人の学生が4～5人の患者を受け持ち、臨床現場に類似した状況で、実際の看護援助を展開することを目標としている。

IV. 看護技術の教育内容と到達レベル

到達目標として始めにあげられているのは、「大学のポリシーや理念を理解する」「専門職としての心構えや責任について説明できる」であり、ついで、コミュニケーションスキルの「適切な方法で情報を正確に伝えることができる」という目標である。

看護技術では、「安全な方法で正確にかつ能率的に行える」「科学的理論的根拠に基づいた介入ができる」、「状況に応じたケアプランの変更ができる」ことが総合的なゴールとしてあげられている。看護過程では、「正常からの逸脱が分かる」、「心理・社会・環境・文化などのデータを統合し、適切な看護診断ができる」、さらに、診断に基づいた計画の立案および実施・評価・修正・再査定

までが求められている。

実践面では、特に薬物療法に関連する技術が重要視され、受け持ち患者に投与されているすべての薬に関するアセスメントとアセスメントに基づいた実施・評価がゴールとなる。つまり、薬理作用、副作用を総合的に判断し、効果的な薬剤投与の方法を決定し、薬物使用中の観察、生活指導、薬物の管理などが要求されている。基礎的な看護技術は〈表1〉に示すとおりであるが、UTでは、一般市民から募集した模擬患者を対象に、監視カメラ付きの個室での実技試験が行われ、患者への対応、説明内容、指導、スミアやパニコロなどの検体採取の技術、標本の作り方、診断までの一連を別室で教員が観察するという実技試験が行われている。

臨床実習では、学内演習で行った全ての技術を臨床で行わなければ学生は卒業資格を与えられない。患者は入院に際して学生の実習に協力する旨の承諾を行い入院してくるため、臨床で行えない技術はない。

ICUコースを含めたすべての実習を終了すると、ベッドメイキング、トランスファーなどの基礎的な看護技術を含めた技術試験と大学独自に作成した州の資格試験対策用のテストが卒業試験として行われる。厳しい関門を勝ち抜いて入学してきた学生のうち卒業できるのは約86%にすぎない。大学では、確実に技術を身につけることと、全員が州の試験に合格することを目標としてお

り、専門職業人を育てる事に焦点を当てている。

V. おわりに

日本においても現在、基礎教育における臨床実践能力の育成が必要であるといわれているが、大学ごとの温度差がまだまだあり、技術は卒業してから学ぶものという考え方をする教員も多い。T.W.Uでは大学だからこそ専門学校以上に優れた看護技術教育が提供できると明言している。大学は質の高い技術教育を行うために、臨床現場のみならず地域住民の協力を得る努力をしており、看護技術に対する日米の考え方の違いをあらためて感じた。

学生たちは「この大学を卒業できれば必ず州の試験の合格が保証されている。」「他の大学の卒業生には負けない技術をもっている。」「自分の大学がアメリカが一番だ。」と自分の大学の理念やカリキュラムをはじめ、その大学に在籍している自分自身にも誇りを持っている。多くの学生が大学の教育理念を自分のことが言葉で語ることできるのがとても印象的であった。

在学中にも卒業後にも、自分の出身大学に誇りを持つことができるような学生と教員との関係性や教育理念にコミットした教育内容と方法を考えていくことの重要性を実感した視察であった。

〈表1〉 学士課程で修得する看護技術

単 元	修 得 す る 技 術
清 潔	清拭、フットケア
環 境	シーツ交換
排 泄	排泄援助、留置カテーテル、人工肛門のケア
移 送	移動、移乗、歩行器、松葉杖
無 菌 操 作	手洗い、ガーゼ交換、手滅菌物の取り扱い、創処置、ガウンテクニック、ドレーン管理
呼 吸 管 理	吸引（鼻腔、気管内）、肺理学療法、呼吸訓練、体位ドレナージ
検 査	検体採取（血液、尿、痰、便その他）
与 薬	点滴管理・ルート交換、静脈注射、シリンジポンプ、輸液ポンプ、筋肉注射、皮下・皮内注射、点耳・点鼻、経口・皮膚・直腸内投与
重症患者のケア	徐圧マット、クーリング、ECG、CVP測定、体温モニター・動脈ラインの管理、酸素飽和度測定、自動血圧測定、血糖測定、硬膜外ポンプ・人工呼吸器の取り扱いと管理、脳圧モニター、疼痛管理、アイソレーション